第5回検討委員会での主な意見について

資料 2

・第5回検討委員会で頂きました主な意見及び対応についてです。

第5回検討委員会での主な意見	対応
アクションプラン全体	
<p>○事業展開の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 市は民の活動をきめ細かくフォローしていく姿勢が大事である。本計画内に記載した推進事業 15 事業以外についても目配りをし、推進事業との関連で浮かびあがった事業については、プラットフォームで議論した上で、機動的に進めていくことを p17 に記載すべき。 	<p>→ご意見を踏まえ、p17「事業展開の考え方」を修正しました。</p>
推進事業	
<p>重点事業①：新たな交流・回遊拠点の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> すぐに動き出すことはできないだろうが、上小山田にも拠点を記載してほしい。 	<p>→ご意見を踏まえ、p21「交流・回遊拠点の開設に向けた検討イメージ」に、小山田地区での開設を目指す箇所 の例示として田中谷戸を加えました。</p>
<p>重点事業②：里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都から土砂災害の警戒区域が公表されたが、小野路地域も警戒区域が多い。町田市としてはそういう場所をどのように考えているのか。 	<p>→土砂災害防止法では、市の役割は指定された箇所を周知し、早期の避難を住民に呼びかけるものと定められています。市としても、こうしたソフト対策に取り組んでおり、市有地が土砂災害警戒区域等に指定された場合の対応についても、避難等のソフト対策が主眼となるため、原則は工事を行うものではありません。山林バンク等を実施することにより手入れが行き届いていない山林を減らし、保水力を向上させることで、土砂災害の危険性を低減させることができると考えています。</p>
<p>推進事業⑪：生活道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道 155 号線は重要な路線である。都市計画道路 3・4・40 号線の進展がない中で都道 155 号線を市が行う事業とすることはおかしい。 	<p>→155 号線は都道であるため、今後も都に働きかけ続けますが、仮に町田市で事業化する場合、都に対して事業費の負担を要望していきます。</p>
<p>推進事業⑬：市街化調整区域における土地利用方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街化調整区域内に地区計画を策定することにより、どのようなまちづくりが可能となるのか。地元住民にとってのメリットは何か。何も動かないのであれば地元が期待するため記載すべきではない。 北部丘陵で地区計画を活用することで、どのような場所のどんな問題を解決するためにどのような使い方があるかをしっかり議論すべき。活性化計画策定時の一つのテーマでもあったが、議論が詰め切れなかった。そのため、行政の宿題としても残すべきであると考えます。 	<p>→市街化調整区域における土地利用方策のイメージが理解できるよう、資料を作成しました。</p>

<p>推進事業⑭：フットパスの環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進事業としてフットパスを独立して記載することに違和感がある。数値目標が整備するコース数では小さな成果ではない。観光客数等、大きな効果が見える指標とすべき。 	<p>→ご意見をもとに再検討し「フットパスの環境整備」を「里山の景観を楽しむ散策コースの整備」とし、内容も合わせて変更しました。</p>
<p>事業展開イメージ</p>	
<p>○活動の主体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体の表現を一般化することで、個々の活動の主体が見えづらくなっている。既に企業や学校と連携して取り組んでいる活動もある。主体に、企業や学校を追加してほしい。 	<p>→ご意見を踏まえ、p42、43の【活動が想定される主な団体】に企業、学校を加えました。</p>
<p>○西山中谷戸の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西山中谷戸は活動主体が不在なうえ、本委員会の中でもそんなに議論されていないため、記載するのはどうか。 	<p>→西山中谷戸については、活動団体や内容は未確定ですが、事業を展開していくべき地区と考えているため、記載しています。</p>
<p>○活動内容の修正（p42）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野中谷戸エリアに「唐木田貯水塔の東側の頂点に、鶴見川の河口が見える展望点を設ける」と記載してほしい。多摩よこやまの道の始点がそれにあたる。 	<p>→ご意見に基づき、野中谷戸エリアの記載を修正しました。</p>
<p>○活動内容の修正（p42）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中谷戸（鶴見川源流）エリアの記載を「鶴見川源流と長池公園をつなげるために、遊歩道づくりを進める。また、途中の眺望点に谷戸の風景を見渡す展望広場を設ける」に修正してほしい。田中谷戸と野中谷戸の両方を見ることが出来る場所がある。 	<p>→ご意見に基づき、田中谷戸（鶴見川源流）エリアの記載を修正しました。</p>
<p>○小野路宿エリアにおける活動の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の同意を得ないまま、小野路宿里山交流館を活動主体とすることはやめてほしい。 	<p>→ご意見を踏まえ、修正しました。</p>
<p>地元への周知、市民意見募集</p>	
<p>○地元への周知の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画の内容について、町内会の回覧等を活用し地域でも周知していこうと思っているので、市の計画として資料を作成してほしい。 ・例えば、概要版を作成し、事前に理解してもらおう事と併せ、地元への説明会を開催することを検討してはどうか。地元への周知に力を入れるべき。 	<p>→2016年12月3日から上小山田町、下小山田町、小野路町、及び田中谷戸街づくり協議会に対して、アクションプランの策定及び市民意見募集について、資料を回覧しました。また、2016年12月13日に、小野路町内会を対象に、説明会を開催しました。</p>
<p>○説明会で必要な資料（マトリックス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への説明会は、利害関係の調整の場でもある為、利害関係者にとっては推進事業が展開される場所等を示したマトリックスがないと理解できないのではないかと。 	<p>→マトリックスを事務局で作成し、第6回検討委員会で説明させていただきます。</p>
<p>○地元への説明会の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集を行う主体は誰になるのか。本検討会が市から諮問を受けて計画を策定するのであれば、本検討会の委員が地元への説明会時にアクションプランを説明することが望ましいのではないかと。その方が、地元理解も得られる。 ・市が責任を持ってアクションプランを策定するのであれば、地元への説明は市が行い、地元の意見をきちんと聞くべきである。 	<p>→本検討会は諮問機関ではありません。本検討会で頂く意見を参考に、市がアクションプランを策定します。そのため、説明会や市民意見募集は市が主体となって行います。</p>

<p>○市民意見募集での意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集で市民等から出された意見について、どのように反映したかを本委員会として確認することが大事である。 	<p>→2月の第6回検討委員会では、アクションプラン案についてご説明します。</p>
<p>○エリアごとの担い手のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業展開イメージにおいて担い手の表現を一般化することにより、既存の活動団体の有無が見えづらくなった。それに伴い、様々な活動団体が手を挙げることも想定されるため、エリアごとに想定する担い手を整理しておき、対応できるようにしておくべき。 	<p>→小山田地域、小野路地域ごとに、活動の場と内容のマトリックスを用意し、想定される活動主体について整理します。</p>
<p>その他</p>	
<p>○担い手の呼び込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域からの担い手を呼び込むために、広報を活用すべき。 	<p>→年1回、広報まちだにおいて「里山保全活動」というタイトルで通年ボランティアを募集するとともに、ホームページやイベントスタジオで情報を発信し、随時担い手の受け入れを行っています。</p>